

ホーム名：サポートハウス城南1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関前や事務所2階多目的室に、理念・方針を掲示しています。	「御入居者が主人公」「尊厳を保つ」「生きがいのある生活」「地域社会と共に」の4つを理念に掲げ、玄関・事務所他2階リビングに掲示し、常に目にしながら理念を実践につなげるよう取り組んでいる。	玄関の掲示板に理念が提示されている。飾られた玄関に釣り合う、来訪者の目を引く様な提示を考えてみられたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会役員・民生委員の方との2ヶ月に一度の集まりを通じて親しくさせて頂いております。一斉掃除や介護相談ポスターも貼らせて頂き包括支援に繋げる場ともなっています。又、地域の方が大正琴演奏等で定期的に訪問して下さいます。	自治会に加入し、年2回の一斉掃除には職員も参加するなど、地域との繋がりを大事にしている。昨年より職業体験学習の受け入れを実施しており、六中の生徒6名を3日間受け入れた。人形劇やフラダンスまた大正琴の演奏など、ボランティアの方々が披露下さっている。	今後も地域の一員として、交流を図っていかれたい。また地域に対しては、認知症についての理解を深める発信の場として取り組んでいくのも良いのでは、と考える。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議時に、認知症に対する理解等を説明させて頂き推進会議では地域の方どなたでも参加して頂ける様にし、来ていただき易い環境を提供しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、その時の施設での状況を報告させて頂き、意見などを頂戴し認知症の理解と施設の取り組みを話し合いサービス向上に活かしています。	隔月の第3土曜日の午後、2階の休憩場で開催されている。自治会役員・地区民生委員・地域包括支援センター職員との参加を得、現状報告・活動報告・質疑応答等なされている。進行・書記とも管理者が行っている。	家族の出席は、高齢化などで段々と難しくなっているとの事である。まだ参加された事のない家族には、運営推進会議の意義を伝え、議事録を配付するなどして今後の出席を促したい。会議場所を、より多くの人が集える様にリビングを利用するなど、考えてみられたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の研修や実施指導等を通じてサービスの向上に努めています。又、市相談員が2ヶ月に一度施設にこられ実態を見られ市に報告されます。	日頃から電話、または足を運び、相談や連絡を密に行っている。家族との意見の調整等、市の担当者にも相談しながら解決を図った事例がある。	市の担当者とも積極的に連絡を取り、協力関係を築いている。今後は、更に実情を見て頂けるよう、運営推進会議への出席を呼びかけられたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアに取り組んでいます。但し、施設の玄関前がすぐに道路となり、市からの安全面での指導もあり施錠をしています。(誰にでも開けられるようになっていきます。)	寝たきりの入居者家族から、“転落防止として、ベッドに四本柵を付けて欲しい”との要望があったが、市との話し合いの上、三本柵を取り付けた過去例があった。玄関は、市の指導により施錠している。	身体拘束については、“安全の為にあたり前”と思わない事が重要である。それを全職員が理解出来ているか、施錠や具体的な行為などを含め、勉強会等で再認識されたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市等の研修には必ず出席し、月一回の勉強会では必ずケアの基本として話し合います。又、スタッフの職場でのストレスがないように、話しやすい環境を作り、防止に努めています。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>重要事項や契約書に成年後見人制度について記載されているので契約時には、説明させて頂いております。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には時間をかけて納得していただくまで、説明をし理解して頂いております。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見・提案箱を作り、不満や苦情を言いやすくしています。又、計画作成者が折に触れて利用者家族と連絡・面談を行い希望・意見等をすぐに反映出来る様に努めます。</p>	<p>「ご意見・提案箱」を設置しているが、要望や苦情等の投書は今のところ無い。毎月入居者の近況報告の便りを送って連絡をとり、何でも言って貰える関係作りを心掛けている。</p>	<p>今後もホームの質の向上に向けて家族との意思疎通を図り、要望や意見を反映させたいものである。そのためには運営推進会議への家族の出席が望まれる。「ご意見・提案箱」には、公共の相談窓口の連絡先を明示されたい。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>勉強会やレク会議・申し送りノート・気づきノートを交えて提案を聞き会社全員に周知しています。</p>	<p>昨年より、職員の提案で「レクリエーション会議」の時間を持ち、レクリエーションの充実・活性化を図っている。会議の進行等主動を職員に任せる事により、責任感が芽生え積極性が出てきたと管理者は感じている。</p>	<p>普段から何事も言い合える職場環境が大事である。職員からより多くの意見や提案が出され、またそれらを反映できることは意欲的な日常につながると期待する。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々の努力は、処遇改善金や労働条件にも反映されるように1年に一回見直しを行い、やりがいに繋がるよう、働きやすい環境整備に努めています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修等受講して勉強会で発表してもらい職員のステップアップに努めています。又、資格の機会も確保しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>包括支援センターが中心になって、認知症連絡会を実施され、(約3ヶ月に1回)その場でグループホーム関係者との交流・意見交換を行ってサービス向上に取り組んでいます。</p>		

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との信頼関係を築く為に、管理者・職員とキーパーソンの絆を深め安心できる人物だとわかって頂き、日々のコミュニケーションを深めていき、ご本人が安心して生活出来る様に支援します。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の段階から密に話し合い、お互いに納得するまで説明させて頂きながら信頼関係を作るように努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よくお話をお聞きし、ご本人の状態や家族の希望に併せて一番よいサービス（他サービスも含めて）を考え提示していきます。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日ご一緒に生活させて頂きながら喜びも不安も共有し、共に分かち合い人生の先輩として教えて頂きながら日々送っています。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力なしではケアが成り立たず必ず密にコミュニケーションを取り、ご本人にとって一番居心地の良い環境になるように相談し共にご本人を支えています。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族キーパソンと相談しながら、お友達や手紙等の投函を通して、今までの関係を継続して頂ける様に努めています。	“畑を見に行きたい”と言われ、同行した例や、家族の協力を得、「歌声喫茶」に同行して頂いた例がある。申し出には極力副えるようにしている。知人等の面会については、家族の同意を得るようにしている。	会話や思い出話にもよく耳を傾けて、思いを探るなどの努力もして頂きたい。馴染みの人や場所との関係継続の支援を、引き続きお願いする。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を重んじて利用者同士交流できるように、毎日のレクや外出等を通して交流を深めています。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お薬書をいただいたりしております。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に接する時間を充分にとり生活支援の中から、ご本人の希望を引き出せるように努めています。	入居者に対して、職員担当制を用いている。「私の姿と気持ちシート」に全職員が記入する事になっており、日頃から入居者の思いや希望の把握をする事に努めている。行動を止めない・その人が何をしたいか、という指導を行っている	何気ない会話や仕草も見逃す事無く、入居者が何を望んでいるか、思いや希望を汲み取る努力を、今後とも願います。“気づき”や“直感力”を大切にしたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	個々の生活歴は大変重要で家族やご本人から、時間をとって話や文書に記入して頂き、カンファレンス会議にてスタッフと話し合い介護計画書にて周知しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画書に基づきケアをさせて頂いております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望・家族の希望を聞き、1日のケースに個々の目的を明示し達成できたかどうか記入しカンファレンスやモニタリングで介護計画を作成しています。	モニタリングを月に1回行っている。3ヶ月に1回職員全員が集まり、カンファレンスを行っている。本人・家族・医師の意見や希望を取り入れながら、長期目標半年・短期目標3ヶ月を設定し、介護計画を作成している。	会話の中などで発する要望や夢(～したい)などの実現に向けて、入居者に即した、張り合いのある目標作り・介護計画の作成を望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録書(ケース・排泄パターン・食事量・健康観察表等)から、日々の申し送り会議やノートで情報を共有しケアや計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や希望・家族の思いや希望によりその方に一番よいサービスが受けられる様に支援したいと思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会・民生委員の方を通じて施設の事を知ってもらい、不安なく暮らしてもらえるように支援したいと思います。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご本人・家族の希望で施設のかかりつけ医にするかどうか選んでもらっています。定期的に医療が受けれるように支援しています。	ホームの協力医院は毎週2回の往診をしてくださるが、往診としての費用は月2回分を支払うのみである。救急時も協力医院から総合病院に連絡していただき、必ず受け入れてもらえる。歯科は希望により月2回の往診を受ける。眼科も希望者のみ受診する。	入居時に希望を聞いてかかりつけ医を決める。ホームから強制はしていない。協力医院の親身な対応で家族は安心していると考えている。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>職員として看護師をおき常に利用者の健康状態を把握し申し送りと健康観察表にて記入しスタッフ全員に周知しています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>家族とかかりつけ医と施設、病院関係者と協議を重ね、連携しています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に、看取り介護の指針について説明させて頂いております。かかりつけ医や主治医が判断しその指示に従い、方針を共有し家族協力の下ケアを行っています。</p>	<p>住み慣れたホームで親しい人に見守られた終末を、という観点で看取り介護の指針を重要事項説明書に明記している。看取りの方針は入居開始時に充分説明し同意を得ている。看取りに際しては、医師の指示のもと、看護師・管理者・家族・職員が協力してすることを決めている。</p>	<p>重度化してもホーム内で看取りをしていただけることは入居者本人はもとより家族も安心なことであると考える。ホーム内看取りは医師の指導と家族の協力は欠かせない。親しい方に囲まれて心安らかな最期を迎えられるよう、職員も協力する体制作りはできている。これからも更なる支援をお願いする。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルを事務所に掲示し勉強会で随時スタッフに周知しています。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防火訓練を行い消防署の指示・許可を受けながら訓練を実施しています。</p>	<p>年2回の防火訓練はしている。抜き打ちで防災機器の検査を受けたが特に問題はなかった。地域と協力を得ての訓練はできていない。備蓄品もまだ十分ではない。</p>	<p>行政が発表している地震・水害の危険地域かどうかを確認し、心配な部分は職員とも話し合い消防や行政の指示を仰がれたい。家族にはホーム向かいの自転車置き場が災害時避難場所であることを連絡されたい。備蓄品を精査して整備を進めていただきたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は一人部屋（個室）でプライバシーを守りプライドを損なわないようにケアをさせて頂いております。	職員には入居者のプライドを傷つけないように、言葉使いなど気を付けるように常に指導している。	人格を尊重・プライバシーの確保ということは入居者が嫌な思いをしていないかということである。常にその視点に立って、入居者の気持ちを汲みとったケアをされているとのこと、さらなる研鑽の継続をお願いする。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のやろうとしている事や行動を止めない・何事もこちらが用意するのではなく、ご本人に伺い自己決定して頂ける様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の事をスタッフがより理解でき、居心地のよい環境を用意できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれがしたい日には、希望によりマニキュアやお化粧等一緒にさせて頂く。また、任意でカットも1ヶ月に1回行っています。身だしなみにも配慮しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や誕生日には、ご利用者のご希望に沿って用意させて頂き、配膳やご自身でできる事を手伝って頂きます。	食事は配食業者から前日、朝・昼・晩食が届けられる。主菜は調理済みのもの、副菜は材料が届けられる。ごはんとおつゆはホームで作る。行事食やおやつはホーム内で作る。おせちは職員が入居者にも教えてもらって作った。職員も同じものを一緒に食べている。	高齢になり少ない楽しみの中で「食」の占める比重は高い。職員も一緒に食べていて家庭的である。入居者の体調もあり外食は家族が連れて行ってくれる時のみである。お正月・クリスマス・その他ホーム内手作りの日は入居者には楽しい時間と思われる。これからはさらに食の充実を図って欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	個々により1日1200キロカロリー～1400キロカロリーの食事を提供しています。刻みやミキサー食・食事量や水分量はリズムパターンにより記入し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	希望により、月2回の歯科受診・口腔ケアに加え日々スタッフがついて口腔ケアを行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々に排泄パターン表を毎日記録し排泄の自立にむけ支援をしています。	排泄の自立ができている方が多い。できるだけトイレ排泄をしてもらうように支援している。	常に先にさきに声をかけることは意思の表出の機会を奪うことになる。排泄時の意思の表出は機能回復訓練の機会と捉えた支援をしている。失敗時は入居者の心に傷がつかないようにさりげない対応をこれからもお願いする。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食には、必ずヨーグルトをお付けし、ご飯には麦をいれ自然に便通があるようにつとめています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人のご希望がない場合は決まった時間、曜日に入ってもらっています。お一人お一人ゆくりと入浴でき職員との会話も大事にしなが楽しんでもらえるようにしています。	お風呂は1階と2階にあるが現在は2階はお風呂としては使用できていない。1階のお風呂を全員で使用している。声掛けなどを工夫し週2回は入ってもらっている。介護度の高い方は週1回であるが、夏はシャワー浴、冬は足浴を、清拭も取り入れている。介護度が重度の方も褥瘡はできていない。	お風呂に入るのを嫌がる方も、出た後は気持ちよかったとの表情のようである。入浴時にいろいろ話が出来てその方の思いが聞かれる、文字通り裸の付き合いの時間である。引き続き楽しい入浴時間とされたい。

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の行動や考えを止めることなく安心して休息して頂ける様に、水分補給など支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフは薬の用法・用量について理解し、情報も共有し支援させて頂きます。又ご様子に変化があった場合はかかりつけ医にその都度、指示を頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクの楽しみや生活の役割を自己決定により持たれることで生活リズムややりがいに繋がるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望に沿って支援しています。又外食等家族との外出も積極的に努めています。	お花見、花火、紅葉狩りと季節に沿って少々遠出をすることはあるが、毎日の散歩などは職員体制の点からできていない。	季節の変化を遠出で感じることは、入居者の心身機能には大変有効である。職員体制もあり厳しいであろうが、外出は身体だけでなく、よそいきの表情となり意識も高まる。日常的にホームの近所を少し散歩することもやってみていただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族のキーパーソンと相談しご本人にお伺いし意向によって低額金管理して頂くことはあるが、その他は小遣い帳に記入し家族に確認領収書をお渡しして管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人の意向に沿って返信のお手伝いや、電話などしたいときにできるように支援しています。電話の取次ぎもしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体が和を取り入れた落ち着いた空間になっていて、トイレや浴室・トイレなどわかりやすくプレートやのれんをしています。壁には皆様の作品や季節ごと又は、行事ごとの手作り作品を飾っています。	玄関は普通の家のたたずまいである。リビングは広く、中心に大きいテーブルがあり、部屋の端の方に机や本棚が置いてある。本が好きな入居者が食事がすんだあと本を広げておられるなど、思い思いの場所でくつろいでいる。壁の装飾も職員の手書きの水彩画に力強さがあり、大人の趣である。その他入居者の合作の作品で飾られていた。	玄関を出るとすぐ道路なので施錠されていた。リビングは大人の雰囲気には設えられている。2階のお風呂は本来の用途で使用されていない。2階の浴室も本来の目的に沿って使用されることが望ましい。ベランダは日当たりがよく洗濯干し、布団干しには不自由しない。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイス等を共有部分に置かせて頂き自由に、使ってもらえる様にしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族とも相談してご本人の意思や希望で、前の生活空間と離れすぎないようにしています。	居室は大きい押入れが完備しているからか、チェストや衣装缶などを置いてなくさっぱりとした部屋が多く見受けられた。中には小机に昔の書作品や、人形を置いてある部屋もある。	入居者の思いに副って設えられていると思うが、カレンダー・時計は入居者に不都合でない限り、見当後退予防のため、ない部屋には設置していただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の行動や考えを邪魔せず、意向に沿って（介護計画書）寄り添いのケアを目標にサポートしています。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない